

回覧



わがまち池上

池上管内世帯人口数
(外国人住人を含む)
(令和6年2月1日)

- ・世帯数 24,793
- ・人口(男) 22,298
- ・人口(女) 23,070
- ・人口(計) 45,368

発行：地域力推進池上地区委員会
編集：地域情報紙
「わがまち池上」編集委員会
事務局：大田区池上特別出張所
〒146-0082 大田区池上1-29-6
電話 (3752) 3441(代)



発行日3・6・9月の25日、12月15日

池上の昔を語る(33)

加藤元弘さんに聞く

(池上四丁目・花見せんべい)



ウチの創業ですか？店自体は大正10年頃にはもうあったらしいです。親父(加藤与市)は昭和13〜14年頃、蒲田の松竹撮影所の近くにあった花見煎餅(横浜・伊勢佐木町の花見煎餅吾妻屋の系統だった)で修行していました。修行を終えて暖簾分けで独立しようとしていたら、大井町で菓子問屋をしている叔父が、池上で良い物件があると話を持ち込んでくれました。そこはもともと煎餅屋ではないか、と捜していたそうで、親父はその煎餅屋を「居抜き」で買ったわけですね。池上名物「塩せんべい」の店として知られていたの、親父は当初、周囲から二代目と思われるらしいです。

しかし店を始めてしばらくして戦時下となり、原材料の調達に厳しくなりました。私が生まれたのは昭和16年9月ですから、子育てと両方で大変だったようです。

昭和20年、空襲警報が鳴って家の近くの防空壕に逃げ込んだ記憶もあり、母の在所の愛知県三河に疎開した思い出も残っています。

戦後間もなくは、食料難の御時世の中、統制経済で煎餅を焼くことができませんでした。その間、下駄屋で下駄の鼻緒のすげ替えをしていました。昭和20年代は普段、下駄履きでした。御会式の時、参詣人が本門寺の石段を上る際、下駄の鼻緒を切ってしまうことが多く、その下駄の鼻緒のすげ替えでなくて済むようになったこともありました。

ある時、大井町の叔父からの助言でお菓子も売るようにになりました。統制が取れたばかりの頃、持ち込まれたお米と煎餅を交換する形で、加工賃が儲けとなりました。こうして昭和30年頃迄は、お菓子を売りながら、煎餅の加工販売をしていました。

親父は平成22年、95歳で亡くなりましたが、煎餅職人としての技術は一流でした(店内には「全国菓子博覧会」等々の受賞の賞状が並んでいる)。私は昭和45年、29歳のとき結婚し、店を継承しました。私と弟の幸男(昭和19年生まれ)が加工を担当し、妻が店での販売、それに一時期は女性の従業員もいて、御用聞きをしたり、お得意様に届けるなど、結構、手広くやっていたこともありましたが、しかし新型コロナの影響で、現在は自分一人だけという状態です。

ウチの店では「二の日」の幟を立てています。毎月二日・十二日・二十二日の「二」の付く日に、昔は池上の商店街のあちこちの商店で立てていたのですが、今はほとんどありません。もちろん二の日はお会式の十月十二日に由来しますが、実は「二の日」は昔、池上の縁日だったのです。

戦後、復興のため、親父も呼び掛け人の一人となって、本門寺商店街で縁日が始まりました。昭和20年代には「二の日」にはウチの前あたりから現在の仏壇屋の雲山堂通りまで多い時には二十軒位の露店が並びました。

縁日は季節によって違ってくるのですが、水ヨーヨー、金魚すくい、鼈甲飴、しんこ細工、竹鉄砲、骨董品、古本(1カ月遅れの雑誌とその付録)、爆弾あられ等々。カーバイトの灯の下で賑わいました。それが警備も含めて、色々な事情で中止になり、その代わり始まったのが「二の日」の特売です。それも今は見られなくなり、寂しくなりました。

呑川の会

日本自然保護大賞(特別賞)受賞

12月6日、池上会館で日本自然保護協会主催の日本自然保護大賞2023選考委員特別賞の授賞セレモニーが行われました。今回で第9回目になり、全国から70件の応募の中から、活動の将来性や社会への波及性などに注目し、厳正なる審査の結果、5件が受賞しました。それぞれの活動地(岩手、福岡、岐阜、北海道、東京)で授賞セレモニーが開催されています。

呑川の会は、呑川を知り愛着を深めるための教育として、小学校への出張授業・ウォーク学習、市民への呑川講座を毎年行っています。また普及活動として、子どもも見易く分かり易い教材とすることを目指し、25年にわたって活動が続けてきた成果の集大成とも言える呑川の総合解説本『わたしたちの都市河川 呑川』(2022年)を発行し、呑川流域の小中高の各学校、図書館、行政機関、議会、呑川に関心の高い市民に1000冊以上配布・販売等を行っています。選考委員には、三面コンクリート張りの川を真ん中において「自然」を見る多数の活動が評価されたようです。

また、このような活動を「自然保護」として取り上げ表彰する事によって、全国の都市河川における積極的な取り組みを応援したいという話が、亀山選考委員長と土屋選考委員からありました。



獅子ヶ谷 横溝屋敷を訪ねて

前号掲載の横溝さんのように、池上地区の旧市野倉や堤方、桐里、梅田、池上本町には多くの横溝姓の方々がいらつやいます。随分前、その内の一人から「横浜市鶴見区獅子ヶ谷に横溝屋敷というのがあるが、ウチと関係があるらしい」と聴きました。そこで、晩秋の小春日和の11月30日、編集委員会有志で訪ねてみました。

『鶴見ゆかりの人物誌』などの著書のある鶴見屈指の郷土

史家、齋藤美枝さんに案内して頂きました。

横溝屋敷は、この地(武蔵国橘樹郡神奈川領獅子ヶ谷村)に江戸時代以前から住んでいた横溝家の屋敷で、主屋(母屋)・長屋門・蚕小屋・穀蔵・文庫蔵などから構成されています。慶長年間(1596~1615)この地の領主だった旗本の小田切氏が江戸に移った時、横溝家の先祖が屋敷を譲られ、その時から代々、里正(名主)を務めるようになったと言われています。

昭和62年、横溝家からその屋敷と周辺が横浜市に寄贈され、翌年11月、横浜市指定有形文化財に登録されました。屋敷の背



横溝屋敷主屋

後は殿山と呼ばれる小田切氏の詰城で、獅子ヶ谷城の異名もあります。東京周辺の葦葺屋根の古民家の建物には移築されたり、レプリカが意外と多いのですが、ここは真正正銘の古民



蚕小屋

家の名主屋敷です。周辺には僅かに田園風景も残り、池上の昔の原風景を見る思いでした。この場所で結婚式が行われたり、各種の体験型のイベントも行われているようです。



徳持小 作品

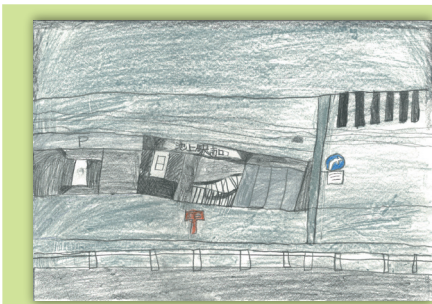
私から見た池上

5年 竹田 悠太

2021年にエトモ池上ができた。そこから池上はどんどん発展している。バスの方もターミナルとなり、池上はとても便利な街になった。そんな池上の名所や魅力を紹介する。

まず、池上本門寺だ。国の重要文化財に指定されているところもある。池上会館と隣接しており、その辺りで祭りも開きされる。池上のまちを見渡すこともできる。

次に池上梅園だ。2月頃に見頃をむかえる梅がたくさん植えられている。梅がたくさん咲いているときはとてもきれいだ。



3年 坂野 蒼真

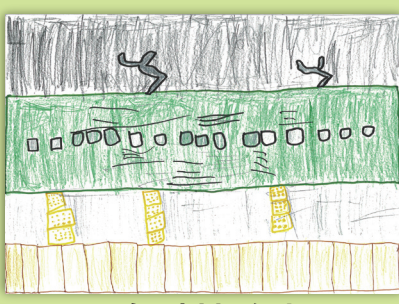


3年 佐々木 結華

このように、池上には名所がたくさんある。ぜひ池上まで観光にきてほしい。

池上本町に 微生物出現

池上駅新駅舎に移転する前の図書館向い側、旧家小木家の生垣が残るお屋敷の隣の池上本町(現池上三丁目二番)に微



3年 宮川 優人



3年 濱嶋 航史

生物カフェ「HITONAMI」の看板を掲げた奥に瀟洒なお店を見かけ、編集委員としては非取材をとの思いで恐る恐る訪問致しましたところ、オーナーの小笠原さんが快く取材を受けてくださり、お話を伺う事が出来ました。現地にての開業は一昨年の七月からで、以前は池上五丁目にて同様のお店を開かれていたそうです。

カフェ内では発酵食品を使用し身体に優しい食事やスイーツを提供し、平日は子供連れのママさん達の居場所としてオーダードリンクで開放し、不定期ですが夕方からは放課後の子供を対象に「こども料理長」を開催するなど、福祉行政さながらの催しの傍ら、発酵食品・手仕事(洋裁やレザー)の講座を開いています。又、店内でアーティストの作品を展示販売等々、催しは多岐にわたります。

HITONAMIのテーマは【自立】一人ひとりの感性を研ぎ澄ませて、そして真の意味で暮らしを豊かにする、そのヒントになる情報などを発信中との事…。

青少対だより

第73回大田区子どもガーデンパーティーが、4月28日に4年ぶりに池上会館において開催することになりました。コロナ禍ではやむを得ず開催することができなくて、昨年は雨天にてまた開催できませんでした。皆さんには申し訳ありませんでしたが、今年は区からの要請もあり雨天でも開催できるようにいたしました。詳細に関しては、ポスター、回覧等をご覧ください。



弊誌一二三号の編集後記で紹介した、谷崎潤一郎の随筆『陰翳礼讃』の中で、まだ電灯の無い時代、美意識と生活と自然が一体化し真に風雅の奥義を知っていた日本人の芸術的感性を論じた著書と、オーナー小笠原さんの唱えるテーマと通ずるものを編者なりに感じます。

「慌ただしい現代人も、ふと立ち止り、昔人のようにゆっくと遠くを見つめる感性へと回り、発酵食品の元となる微生物のように年月を重ね、旨みを醸し出すような人間に」との小笠原さんの心意気に感銘し、帰ってまいりました。

俳壇

堤方東町会

松野 寿美代

筆塚の
穂先に散れり 若葉影

花みずき
小さき産院 囲みたる

谷若葉
ローカル線の 待ち合せ

鐘楼も 桜吹雪の 中にあり

根岸 功子

石佛に
散華となりし

山桜
たんぼほの
一輪ひろく

狭庭かな



編集後記

年明け早々に、能登半島地震と羽田の航空機接触事故が発生し、甚大な被害が出てしまいました。

東京も今年は、関東大震災から101年経過し、同様の地震がいつ起きてもおかしくない時かも知れません。

日頃より地震に備えた準備を忘れず、身の周りの整理整頓を心掛け、地域のみなさんの連携も大切なので、情報の収集と声掛けに務めることも必要だと思われま

